



喜志小だより

令和4年1月号



さあ、やってみよう! 『喜志一心(きしいっしん)』 ~児童・保護者・地域・教職員が、喜志小で心ひとつに~

この『環境』をこそ大切に

校長 塩野 義和



あけましておめでとうございます

「さあ、喜志小だより1月号、どんなことを書こうか」と考えているうちに年が明けました。例年通りの3日が日を過ぎました。2日には、これも例年通りの三社詣(滝谷不動尊、美具久留御魂神社(喜志の宮さん)、道明寺天満宮)、般若心経が唱えられ護摩木が炎に包まれる中、ご祈禱を行いました。毎年なのですが、身の引き締まるひと時でした。3日には、元旦の新聞を隅から隅までしっかりと読みました。「一年の計は元旦にあり」と言われますが、元旦の新聞には、今年一年を考えていく材料が満載なのです。とりわけ、今年は『環境』に関わる話題が多かったように感じました。さて、自分自身は『環境』について、どう行動を起こすか……。

いつも学校をそうじてくれてありがとう

「そうか、まずは今まで通りやっていこう。そしてゆっくりと考えていこう。」当面の答えを出しました。身近なところから『環境』について行動していこう、その中で、新しいことも模索していこうと……。

きし小をもりあげていこうね

「えっ、私に檄を飛ばしてくれている!」そして「一緒にやろうね!」という掛け声、決意を表してくれているのだ。こどもたちに負けてはいられない、いやいやこどもたちと一緒に『環境』を創り、一緒に盛り上げ、一緒に勝つ。もちろん楽しみながら……。世の中は、まだまだピンチです。でも喜志小では、昨年、見事にこのピンチをチャンスにし、さまざまな実を結びました。そのようになったのは何故か。それは、喜志小に関わるすべての人が、この『環境』をこそ大切にしたからに他なりません。さあ、今年も歩みを止めず、更なる高みに登っていきます。人間の底から、そして喜志の底からを、集め、繋げ、結んでいきましょう。

校ちょうせんせい大すきだよ

私も、何を書こうか困っている時に、こうして手紙を学校まで届けてくれる、ピンチをチャンスにしてくれる喜志っ子、素晴らしい『環境』を育んでくれる喜志小や喜志地区、すべて大すきです。そして私をはじめ職員一同、今年も一生けん命やっていきますので、引き続きご協力いただきますよう、よろしく願いいたします。



あいさつからはじめるコミュニケーション

外国語担当

「あの先生、誰? なに言ってるんかわからん」
4月につぶやいていた1年生。今では元氣よく「See you!」と返してくれるようになりました。もちろん、6年生も恥ずかしがらずに大きな声で返してくれます。自分から声をかけてくれる子どもたちも増えました。
5・6年生では、『外国語』が教科になって2年目。伝えたい内容も、表現も増えてきました。難しいと感じ、苦手だと感じている子どもたちも少なからずいると思います。
しかし、本当に大切なのは、コミュニケーションをとろうとする気持ちだと思います。そして、あいさつはそのきっかけです。今、行っている何気ない英語でのあいさつがコミュニケーションをはじめるときのハードルを下げてくれればと感じています。

そして、いつか、こんなつぶやきに。

「あ、英語の先生や。英語であいさつしてみよう!」「あ、英語で話せた!」



インフルエンザによるお休みについて

インフルエンザによるお休みについては、「出席停止」扱いになり、「欠席」ではありません。お医者さんからインフルエンザの診断を受けましたら、学校まで連絡下さい(医師による意見書等はいりません。連絡で大丈夫です)
インフルエンザによるお休みは、「発熱後5日」かつ「解熱後2日」の間です。受診したお医者さんの話を聞いて、登校する日を決めてください。

こころ 心をつなぐ

☆1月の行事予定

おんがくたんとう 音楽担当

あたら とうし むか へ、まだコロナ禍の続く今、いろいろなことを考えます。人として大事な
ことって何だろう。音楽にできることは何か…。

がくせいじだい せんせい きよくめい おんがく きよくめい かんが
えて演奏すること。」とよく言われました。そうすることで、曲に込められた作曲者の想
いを理解し、音楽の表現の仕方がイメージしやすくなりました。音楽の中でも、歌詞がつ
いている『歌』は特に大好きです。歌詞に込められた想いを表現して歌うことで、何度とな
く心が励まされ、救われました。楽譜(歌詞)を読む時、私は作曲家から手紙をもら
ったような気持ちになります。時を越えて世界中の作曲家とつながれたような、そんな気持ち
になるのです。

がっき ねんせい おも い おんがく ちょうせん ひとり
2学期、6年生と「想いを生かした音楽づくり」に挑戦しました。まず、一人ひとり6
年間の学校生活を振り返り、その想いを込めた歌詞を創りました。そして、ガレッジバン
ドアプリを使い、作曲したメロディーに自分の歌声をのせて完成させました。初めての
経験に子どもたちは戸惑っていましたが、何もない真っ白な空間に、どの子も自分の想
いを生かした世界に一つだけの音楽を生み出すことができました。そして、創った音楽を通して、
それを創った友だちの気持ちと繋がることができました。

こ じぶん おも い おんがく さつきよくしゃ つた おも
込められています。音楽を聴く時、ただ何となく聞くことも一つの楽しみ方ですが、作曲
者の想いやその曲の背景を知ること、同じ音楽でも感じ方が変わります。音楽には、悲
しみを癒したり、勇気を与えたりと、人の心を動かす大きな力があります。コロナ禍で人と
つながることが制限され、気持ちが塞がることもあ
りますが、音楽の授業を通して、感じる心を育て、
孤立しがちな子どもたちの心を繋ぎ、開くことが
できるといいなと思います。子どもたちが、幸せ
に生きていけますように。

